

# 県内の周産期医療体制の再編について

## 1 概要

これまで、5つの周産期母子医療センターで運用してきた合計27床のNICU（新生児集中治療室）を、24床へと再編するもの

## 2 背景

県内の5つの周産期母子医療センター（県立病院、大分大学医学部附属病院、アルメイダ病院、別府医療センター、中津市民病院）で、合計27床のNICUを運用してきたが、アルメイダ病院のNICU病床6床の稼働率が日によって大きく変動し、医療資源の有効活用に課題があることから、本年5月10日にアルメイダ病院より、NICU病床の運営について相談があった。

## 3 経過

大分県周産期医療協議会を開催し、来年3月末のアルメイダ病院のNICU廃止後の周産期医療体制の再編について検討を行った。

再編の検討に当たっては、アルメイダ病院が担っている周産期医療の評価を行うとともに、国の周産期医療体制整備指針を参考に、NICUの必要病床数を検討した。その際、県内のGCU（新生児回復期治療室）の機能強化も考慮し、NICUの必要病床数を24床とした。

NICU24床確保のために、NICU増床が可能な医療機関の検討を行い、県立病院に3床の増床を要請することになった。

【参考】国の周産期医療体制整備指針では、NICUは出生1万に対して25～30床  
平成30年の出生数8,200 NICU必要数 20.5～24.6床

## 4 医療計画の変更内容

令和2年4月1日より県内の周産期医療体制を以下のとおり再編する。

	現 行		令和2年4月1日～	
県内のNICU 病床数	大分県立病院	9床	大分県立病院	12床
	大分大学医学部附属病院	6床	大分大学医学部附属病院	6床
	別府医療センター	3床	別府医療センター	3床
	アルメイダ病院	6床	アルメイダ病院	0床
	中津市民病院	3床	中津市民病院	3床
計	27床		24床	

「大分県医療計画」新旧対照表（P72～74）

変更後（令和2年4月1日～）

現 行

第5章 安心で質の高い医療サービスの提供  
第9節 周産期医療  
（現状及び課題）

（略）

- 総合周産期母子医療センターのMFICU(母体胎児集中治療室)及びNICU(新生児集中治療室)の各病床数は、6床及び**12床**、また、周産期母子医療センター等のNICUの病床数は、現在**24床**となっており「周産期医療の体制構築に係る指針」における整備基準を満たしていますが、空床を確保する観点からNICUからの在宅移行及び在宅療養を促進するための支援体制の強化が課題となっております。

（略）

周産期母子医療センター等の状況

施設名	位置付け	所在地	産科病床数		新生児科病床数	
			床	(再掲)MFICU	床	(再掲)NICU
大分県立病院	総合周産期母子医療センター	大分市	25	6	36	12
大分大学医学部附属病院	産科の三(二)次施設、新生児科(小児科)の三次施設	由布市	(※1)30	—	12	6
別府医療センター	地域周産期母子医療センター	別府市	(※1)35	—	8	3
大分市医師会立アルメイダ病院	地域周産期母子医療センター	大分市	16	—	12	(削減)
中津市立中津市民病院	地域周産期母子医療センター	中津市	35	—	7	3
計			(※1)141	6	75	24

(※1) 婦人科病床を含む病床数

第5章 安心で質の高い医療サービスの提供  
第9節 周産期医療  
（現状及び課題）

（略）

- 総合周産期母子医療センターのMFICU(母体胎児集中治療室)及びNICU(新生児集中治療室)の各病床数は、6床及び**9床**、また、周産期母子医療センター等のNICUの病床数は、現在**27床**となっており「周産期医療の体制構築に係る指針」における整備基準を満たしていますが、空床を確保する観点からNICUからの在宅移行及び在宅療養を促進するための支援体制の強化が課題となっております。

（略）

周産期母子医療センター等の状況

施設名	位置付け	所在地	産科病床数		新生児科病床数	
			床	(再掲)MFICU	床	(再掲)NICU
大分県立病院	総合周産期母子医療センター	大分市	25	6	33	9
大分大学医学部附属病院	産科の三(二)次施設、新生児科(小児科)の三次施設	由布市	(※1)30	—	12	6
別府医療センター	地域周産期母子医療センター	別府市	(※1)35	—	8	3
大分市医師会立アルメイダ病院	地域周産期母子医療センター	大分市	16	—	12	6
中津市立中津市民病院	地域周産期母子医療センター	中津市	(※1)35	—	7	3
計			(※1)141	6	72	27

(※1) 婦人科病床を含む病床数